

1/13-19 #6命において目を覚ましており、奉仕において忠

信であるCP1I 私たちは命のために、油、神の霊、さらには彼の充満を必要とします。それによって、私たちは処女の生活をして、主の証しとすることができます

A その時、天の王国は、十人の処女が自分のともし火を持って、花婿を迎えに出て行くようなものである(マタイ25:1):25:2 そのうちの五人は愚かで、五人は思慮深かった。3 愚かな者たちは、自分のともし火を持っていたが、油は持っていなかった。4 しかし、思慮深い者たちは、自分のともし火と共に、器に油を持っていた。1 処女は、命の面から見た信者たちを表徴します。2 王国の民である信者たちは貞節な処女のようにであり、暗い時代に主の証し(ともし火)を携え、主を迎えにこの世から出て行きます。このために彼女たちは、聖霊の内住だけでなく、聖霊の充満をも必要とします。3 ともし火は、信者たちの霊を表徴しており、その中には油としての神の霊が入っています: a 信者たちは、彼らの霊の内側から神の霊の光を輝かし出します。神聖な光が人の内側の各部分の中へと輝くために、油としての神の霊は、灯心としての人の霊に浸透し(ミングリングされ)、人の霊と共に「燃え」なければなりません。4 思慮深い処女たちは、自分のともし火と共に、器に油を持っていました。a 人は神のために造られた器であり、人の人格は彼の魂にあります。ですから、マタイ25:4の「器」は、信者たちの魂を表徴します。再生を通して、私たちは霊の中に神の霊を持っています。これが私たちのともし火を燃やします。しかし問題は、私たちの魂を充満する余分の聖霊を私たちが持っているかどうかです。私たちはともし火の中に油を持っていますが、私たちの魂の中に余分の油を必要とします。これが表徴するのは、その霊が内側の私たちの霊から、魂のあらゆる部分に広がらなければならないということです。その時、私たちは魂の中に余分の聖霊を持つでしょう。私たちはこの余分を持っているなら、思慮深いのです。...私たちは賢明であるなら、こう祈るでしょう、「主よ、私をあわれんでください。私はあなたの霊を私の霊の中だけでなく、私の魂の中にも持ちたいです。主よ、私はその霊の充満を必要とします。私の全存在を満たす聖霊の余分の分け前を必要とします」。

CP2I 4c マタイ25:9の「買いなさい」という言葉は、代価が払われなければならないことを示します。聖霊の充満は、この世を放棄すること、自己を対処すること、すべてにまさって主を愛すること、キリストのゆえにすべての事を損失と勘定することなどの代価によって得られます。もし私たちが今日この代価を払わないなら、復活させられた後に払わなければならないでしょう。9 しかし、思慮深い者たちは答えて言った、『私たちとあなたがたのためには、おそらく

十分でないでしょう。それよりも、売る者たちの所に行って、自分のために買いなさい』。B 毎日私たちは、目を覚まして、代価を払い、金の油としてのその霊を買う必要があります。それによって私たちは、イエスの証しのためにその霊を諸召会に供給し、主によって褒賞を与えられて、小羊の婚宴にあずかります。8 私たちはこれらの邪悪な日々において、時を贖い取り、霊の中で満たされ、詩と詩歌と霊の歌とで語り合い、すべての時に、すべての事に対して、主に感謝をささげ、キリストを畏れつつ、互いに服従し合う必要があります。エペソ5:17 こういうわけで愚かであってはなりません。かえって、何が主のみこころであるかを理解しなさい。18 また酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。むしろ霊の中で満たされ、19 詩と詩歌と霊の歌とで語り合い、心から主に向かって歌い、朗詠しなさい。私たちが主の現在の動きに対して真剣であるなら、毎日、朝ごとにその霊で満たされなければなりません。私たちは自分の罪を告白する必要がありますが、また代価を払う必要があります。私たちの霊に入って来られたその霊は、無代価で与えられましたが、浸透する霊が私たちの全存在、特に魂を満たすのは、無代価ではありません。それは代価を払わなければならない、買わなければならないものです。罪人である私たちが悔い改めて、罪を告白し、主イエスを信じた時、私たちは直ちに再生され、その霊は無代価で与えられました。しかし、毎日私たちは彼の満たし、彼の浸透に霊から魂を貰っていただくことを必要とします。私たちは代価を払う必要があります。...私たちの多くは、主よりもベッドを愛しています。日常生活の中で、私たちは多くの物事を愛するかもしれませんが、これらの事柄は罪深くないかもしれませんが、それは主を置き換えるものです。私たちは主に初めの愛を与えず、他の多くの事柄に初めの愛を与えるかもしれません。今、私たちはこうした他の事柄をすべて捨てなければなりません。

CP3II 私たちは奉仕、働きのために、タラント(霊的な賜物)を必要とします。それによって、私たちは良い奴隷として装備されて、主が完成しようとするものを完成することができます。A3 タラントは、霊的な賜物を表徴します。命におけるその霊の充満は、私たちが奉仕(働き)において霊的な賜物を用いることができるようにします。奉仕における霊的な賜物に、命におけるその霊の充満が符合していれば、私たちはキリストの完全な肢体とすることができます。E 私たちは、主の賜物を用いて、召会を建造する必要があります。それは、キリストをもって人に仕え、キリストを恵みとして彼らに供給することによってです: マタイ24:45 そこで、主人が家族の上に任命して、時に応

じて彼らに食物を与える忠信で思慮深い奴隷は、だれであろうか？<sup>2</sup>私たちは、時に応じてキリストを霊的食物として人に供給する必要があります。<sup>a</sup>私たちは、時が良くても悪くても、毎日、あらゆる種類の人にキリストを語る必要があります。<sup>b</sup>私たちは、必死に力を尽くして、どの集会でも語る習慣を建て上げる必要があります。私たちが共に集まる時はいつも、これは適切な食物を主の家族に供給する応じるべき時、定められた時の一つです。しかしながら、仮に、私がいよいよ加減で、御言を読まないとします。もし私が御言において十分に労苦しないで、来てあなたに語るなら、ただ「一杯のコーヒーといくつかのドーナツ」を供給しているだけです。栄養になる、良い朝食を料理するには、あなたの勤勉さを必要とします。...私たちは御言を追い求めることで勤勉にならなければなりません。それによって私たちは集会に来るとき、用意して良い食物を給仕することができます。**CP4IIIES**この世に少しでも入り込むと、私たちは主の賜物を役に立たないものとし、地的な弁解を口実として主の賜物を無駄にしてしまいます。マタイ 25:14 天の王国は、ある人が外国へ行こうとして、自分の奴隷たちを呼び、彼らに自分の財産を渡すようなものである。15 彼はある者に五タラント、ほかの者に二タラント、ほかの者に一タラントを、それぞれの能力にしたがって与えた。... 16 五タラントを受けた者は直ちに行って、それで商売をし、ほかに五タラントをもうけた。18 しかし、一タラントを受けた者は立ち去って地を掘り、主人の銀貨を隠した。**C**私たちは、いつも主の働きに満ちあふれているべきです。なぜなら、主のための私たちの労苦は、彼の復活の力を伴う彼の復活の命にあっては決して無駄になることはなく、神の永遠の定められた御旨を完成するという結果になることを知っているからです。五タラントの奴隷は五タラントの利益を得ました。二タラントの奴隷は二タラントの利益を得ました。これは、いかなる損失や浪費もなしに、彼らが十分に主のタラントを用いたので、彼らは同じ褒賞を受けたことを示します。...地はこの世を表徴します。ですから地を掘ることは、この世に入り込むことを表徴します。この世とのどんな交際、どんな関係でも、わずかの世的な話でさえ、私たちに主の賜物を埋めさせるでしょう。...私たちは...この世の中へと入り込んで、無感覚になって、麻ひさせられた、この世的な人々と共に享受すべきではありません。...私たちは仕事を持って、自分たちの生活を維持すべきですが、私たちはそれを掘るべきではありません。...私はまた、召会のすべての若者が最高の教育を受けるように励ましましたが、穴を掘って、主があなたに与えたタラントを埋めてはなりません。

**証**私は奉仕、働きのために、主から与えられたタラント(霊的な賜物)をフル活用しなければ、主の要求に応じることができないことを証します。私は日本企業と米国企業の合併会社に2011年に転職しました。転職した時に、彼らは丁度50周年でした。私がある会社で働いておよそ4年が経った頃、本社の社長に、次のことを告げられました。①米国本社が会社の株式を100%買収し、100%子会社にする、②日本法人の幹部社員で私以外は、社長も含めて全員解雇になることが知らされました。私は解雇リストに社長も含まれていることに大変驚きました。同時に、私が彼らに高く評価されていることを知り、気を引き締めました。その約1年後に実際にそのことは起こりました。この買収後、私は彼らに高く引き上げられました。それからしばらくして、主の働きのために、私は2016年のネパールの全国特別集会で、集会のメッセージを取り組んで行うようにアレンジされました。私は米国出張後、直ぐにネパールに行きました。香港の空港で乗り継ぎの待ち時間の間、私は自問自答し、「私は忙しすぎて、主の必要に応じきれていないのではないか？」と言いました。2015年と2016年は召会の主日の人数の増加率が10%を切っており、これは1992年に神戸に在る教会が開始してから初めてのことでした。このゆえに私は内側にずっと葛藤があり、ネパールの特別集会をきっかけに、会社を辞めることを祈り始めました。帰国後、妻と交わり、更におもだった兄弟姉妹と交わり、早期退職を決定しました。私が会社を辞めることを決定してから、2016年10～12月に召会の人数は反転し、再度増え始め、最終的に2016年は10%増加率に到達しました。主から与えられた霊的賜物は、ビジネスライフにおいても有用であるとはいえ、そもそも霊的賜物は、召会が人数において増し加わり、建造されるためです。私はビジネスパーソンとして力の限りを尽くし主に仕えていたと思っていましたが、このことを通して部分的に賜物を地に埋めていたことが分かりました。その後、召会の人数は2018～2019年において15%以上増加しました。2020～2023年前半のコロナ禍で、私たちはYoutubeやZoomを用いてネット上で福音を伝え、主日の集会なども行い、祝福されました。ある主日の集会のYoutube再生回数は約800回でした。福音がコロナ禍でも伝えられたことを賛美します。しかし2024年5月の特別集会を転機に、主日の集会をZoomから現場に転換させました(一部の例外を除く)。この変更起因して、現在主日の集会の人数は200名強から約170名に減少しています。2025年は基数172.5人で、11.9%増の193人を目標にしています。